

# 東京都美術館 ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS



東京都美術館  
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No. 464

# start

輝くあの人とartの素敵な出発点

Interview

## シシド・カフカ

SHISHIDO KAVKA



ミュージシャンで、女優。  
常に新しい試みに取り組みながら、  
多彩な魅力を見せてくれている、  
シシド・カフカさん。音楽や演技だけでなく、  
大学では写真を専攻し、書道や絵をたしなむ  
という一面も持ちます。  
そんなシシドさんの、アートとの触れ合い方、  
美術館の楽しみ方についてうかがいました。

Musician and actress SHISHIDO KAVKA continually accepts new challenges and reveals new facets of her charm. Besides music and acting, she enjoys photography (her university major) and calligraphy and painting, as well. We asked her about the fascination of art and museums.

### 忘れられない美術館体験は 「怖い絵」との出会い

小さいころから、両親に連れられて美術館に行っていました。どこに行ったとか何を見たとかの明確な記憶はあまりないのですが、絵を眺めるのは好きでした。はっきり覚えているのが、小学校3年生のときに行ったプラド美術館です。当時、叔父がスペインのマドリッドに住んでいて、家族で訪ねたときのこと。プラド美術館の広い館内を歩いていてふと曲がったとき、正面にもすごく怖い絵をみたんです。描かれているのは人が人をつかんで食べている姿。ゴヤの《我が子を食らうサトゥルヌス》という絵でした。絵画というのはきれいなものだと思っていたので、こんなに怖い絵があるのかとびっくりしました。

音楽と出会ったのもやはり子どものころで、10歳でドラムを始めました。高校を卒業後は進学せずミュージシャンを目指したいと思っていました。でも親に「今どきミュージシャンはみんな大学を出ている」と騙され、大学へ。選んだのは、写真です。大学の4年間で目標としたことは、「誰が見ても『この写真はシシドだ』と分かるような作品をつくらう」ということ。その集大成としての卒展では、自分がロックだと感じる人たちのポートレートを展示しました。私らしい作品だと友人たちに言ってもらい、先生方からはいろいろな指摘をいただいた上で、「でも、これがおまえの表現であればそれでいい!」と評していただきましたね。いい悪いではなく、表現したことを個性と捉えてくださって、ありがたかったなと思います。

今も、美術館にはよく行っています。駅のポスターを目にしたたり、たまたまチラシを手にとったりしたときに、気になる展覧会を見つかることが多いです。まさに偶然の出会いですね。その出会いで興味を惹かれてワクワクしているわ



美術館に足を運ぶということとは、  
期待と興奮を満たしたしに行くという瞬間

I visit the art museum in order to feel surprise and elation



## シンド・カフカ

ミュージシャン、女優。メキシコ出身。ドラムヴォーカルのスタイルで2012年「愛する覚悟」でCDデビュー。『カフカナイズ』、『トリドリ』、『DOUBLE TONE』とアルバムを発表しながら、精力的にライブを展開。また、「ファースト・クラス」(フジテレビ)、「連続テレビ小説 ひよっこ」(NHK)などのドラマやバラエティ、CMなど多方面で活躍中。「NHK高校講座 美術I」(Eテレ)や「新美の巨人たち」(テレビ東京)などアート番組にも出演。2018年からは、リズム・イベント「el tempo」を主宰。



けですから、私にとって美術館に足を運ぶということは、この興奮を満たしに行くということなんです。

### 実物を前にしたその場でしか受け止められないものがある

会場で「お、これは」という作品があったら、まず一步下がって全体を見ます。そしてググッと近づいて細部を観察するんです。自分でも書道をやっていたり、絵を描くのが好きだったので、「こういう筆使いをしているんだ!」とか、「うろこはこうやって描くのね!」とか、発見して楽しんでいます。そして、会場が空いていて部屋の真ん中にベンチがあれば、そこに必ず座って、作品に囲まれた空間に滞在する自分を感じてみようと思います。そういう時間も好きです。

アートを楽しむには、作品集や展覧会の図録もありますけれど、やっぱり美術館には実物

の作品を前にしているからこそ感じられるものがあると思います。分かりやすいのはサイズ感で、実物を見て大きさを体感するだけでも、受け止め方が変わって面白い。初めてモナ・リザを見たときには「えっ、こんなに小さいの!?!」と衝撃を受けました。また、ミュシャの作品を見たときにはその大きさにびっくりして「こんなに大きい絵を、どうやって描いたんだろう」と、想像が膨らみました。音楽もライブで体験したときならでの驚きや感動があるように、美術館にもその場のライブでしか受け止められないものがあると思っていますし、私はそれを大事にしたいと思っています。

そんなふうに、私の美術鑑賞はとても時間もエネルギーも使うので、美術館に行く日は他に何も予定を入れないようにしています。体調も大事。体調がよければ、心の感度も上がりますから。

## アートに触れて心動いた その体験が新しい自分をつくる

どういうものに自分が心動かされるのかというと、やっぱり自分の表現したいものに近い作品が多いように思いますが、ときどき全く異なるものに惹かれることもあって、それはそれで「なんでだろう!?!」と考えるのが面白いですね。

アートに触れて心動いたという体験は、いつか自分に返ってくるものだと思います。みた作品にインスパイアされて何かを創るというような直接的な影響はありませんが、作品を通じて感じたり考えたりしたことが、自分の中で新しい視点やスタンスを築いてくれるような気がしています。

そしてまた、仕事を通じてアートとの触れ合い方も変わってきました。テレビ番組で専門家の方と美術鑑賞をさせていただく機会があったんです。そのときに、作品のバックグラウンドを知りながら鑑賞するのもいいな、ということを経験しました。それで2019年に、東京都美術館で開催されていた「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」をみたときに初めて音声ガイドを使ったら、これが本当に楽しかったんです。一人で鑑賞していても気がつかない見どころをたくさん知ることができました。

浮世絵も、仕事を通じて出会ったもののひとつです。あらためて浮世絵をじっくりみたときに、マンガみたいにデフォルメされている描き方に、江戸時代からこういう表現があったんだなあと感銘を受けました。そのわりに、着物の柄の細やかさや、動きに合わせてその柄が曲がったりゆがんだりといったディテールもしっかり描かれていて、そのリアルとデフォルメのギャップに興味を惹かれています。

しっかり体調を整えて、ワクワク期待しながら次の美術展の開催を待ちたいと思います。

## start

### Most memorable art museum experience: seeing a “frightening painting”

My parents took me to art museums in my childhood. My most memorable experience was seeing a horrifying painting, Goya's *Saturn Devouring his Son*, at the Prado Museum when a third grader in elementary school. Paintings were supposed to be pretty, I thought, so I was surprised. I often go to art museums even now. When I find an exhibition I want to see, it's almost always by chance. I will see the poster at a station or just happen to pick up the exhibition handbill. That encounter sparks my interest and gets me excited, so my purpose in visiting the art museum is really to satisfy that interest.

### A fresh experience you can have only there, in front of an actual artwork

Art books and art exhibition catalogues are great for enjoying art, but there are things you can only feel by standing in front of an actual artwork at the art museum. The sense of size, for example. Size is always an interesting surprise because my impression of the artwork will be different. The first time I saw the *Mona Lisa* I was shocked: “Wow, is it this small?!” When I saw a work by Alphonse Mucha, I was surprised by how large it was. “How did he paint such a big painting?” I wondered, my imagination aroused. Just as music offers the emotion and surprise of a live performance, the art museum offers live experiences you can only have there, and I value those experiences highly.

### Being moved by art helps me become a new person

As for the kinds of art I like, I am usually moved most deeply by art that is close to my own feeling of what I want to express. Sometimes, though, I am attracted to something completely different that makes me go “Wait, what is this?” Then, being moved by an artwork may not directly affect my activities, but the feelings and thoughts it awakens in me help me form new perceptions and a new outlook. These days, I am learning new ways of enjoying art through my work. I had a chance to view artworks with an art expert on a TV program. That experience showed me how nice it is to view an artwork while learning in detail about its background. Also, when I saw the exhibition “Lineage of Eccentrics: The Miraculous World of Edo Painting” at Tokyo Metropolitan Art Museum in 2019, I used the earphone guide for the first time, and that was really fun. I was alone, but I discovered many aspects of the paintings I normally would not have noticed. Recently, I have had new encounters with art through my television work and so on, *ukiyo-e* being one of them. *Ukiyo-e* uses deformation like Japanese *manga*, yet kimono patterns and such are depicted realistically in detail, and that gap between realism and deformation excites my interest. An exhibition is more interesting when you're in shape for it. I am getting myself in shape, right now, filled with anticipation about my next art exhibition experience.

展覧会の舞台裏

# Creating Exhibitions

新型コロナウイルス感染症の影響により、会期半ばで閉幕となった「ハマスホイとデンマーク絵画」。展示室内にある展覧会特設ショップも閉店を余儀なくされました。急速決まったオンラインショップ展開の舞台裏を、特設ショップを担当いただいた株式会社East代表の関 永一郎さんにうかがいました。

"Vilhelm Hammershoi and Danish Painting of the 19th Century", along with its exhibition shop was forced to close early due to the new Coronavirus. The shop later opened online. We asked Eichiro Hiraki, the managing director of East Inc., responsible for the merchandising, for an insight into the opening of their first online shop.

## 会期限定で許可される展覧会特設ショップ 展覧会の感動を一緒に共有できる場所でありたい

Temporary exhibition shops, a place where the emotional experience of the show culminates.

### 始まりはSNSでのつぶやきから

展覧会の閉幕が発表されてから一週間後、Eastのツイッターにはフォロワー数の約8倍にも達する「いいね」の反響がありました。それは、『弊社が担当したハマスホイ展ショップ。展覧会は終わってしまったけど、グッズは、何とか買えるように出来ないものか、協議が必要。何故なら、この15年の担当ショップの中でも、ズバ抜けて人気のショップだったから。。。』(原文ママ)という開さんのつぶやきでした。

「いつもなら一桁の反応ですが、このツイートには4722件の“いいね”と1359件ものリツイートがあり驚きました。これだけ多くの人が期待してくださっているのを肌で感じ、具体的にどうすれば実現できるのか情報収集を進めました」と予期せぬ反応に背中を押された開さん。これまでEastが都美で手掛けた「コートールド美術館展」(2019年)、「クリムト展」(2019年)、「ムンク展」(2018年)など展覧会の人気に比例するように特設ショップも人気を集めています。

「ハマスホイ展ではお客様一人一人の熱量みたいなものが、どの展覧会にも負けていない

のが商品に対する反響からも伝わってきていました。会期半ばで閉幕となり、来場する予定だった多くの人たちに展覧会をみてもらうことができていない、本当に喜んでいただけという思いもあっただけに仕方ないでは済ませられないし、未だ途中という強い感情も大きかったのを覚えています」と当時を振り返る開さん。



「ハマスホイとデンマーク絵画」オンラインショップ

Special exhibition online shop ("Vilhelm Hammershoi and Danish Painting of the 19th Century")



展覧会特設ショップ。オリジナルグッズの側に置かれたメッセージカードには、商品への想いが綴られていた



Merchandising made especially for the exhibition is displayed with a panel explaining the inspiration behind each one.

### リアル店舗からオンラインショップへの転換

展覧会の期間だけ開店する特設ショップについて、「展覧会に来られた方にしか買えないもの、出会えないものが用意されている場所」が大きな特徴と開さん。その特別な場所は、作品所蔵館の許可無しには商品化も販売もできず、展覧会場以外での展開は、さらに所蔵館や展覧会主催者からの許可が必要でした。

「新型コロナウイルス感染症という、世界的に同時進行している特殊な事情から理解が得られたことにとっても感謝しています。一方、予算がなく未経験、非常事態宣言による外出自粛により事務所に集まることもできない」という中での手探り状態でのスタートとなりました。グッズ写真や商品紹介の文章もすべて社内で作成し、4月30日には期間限定オンラインショップ(5月10日まで)を開店することができました。しかし、「オンラインショップではできないことも多いのではないか」という懸念もありました。

それは運営で一番大事にしている、「単に物を販売して渡すだけではなく、展覧会の感動を一緒に共有できる場所でありたい」という理念でした。それを表すのが作品や作家の背景も含めて商品化されたオリジナルグッズです。環境に配慮してクリアファイルやポストカードを入れる袋は紙製で作るなどメッセージを込めて発信しています。「日頃から、商品を介してお客様との対話も大切にしています。単に物をお金に換えるだけではない何か大切なことを、通信販売であっても残したいと思いました」と話します。

### 展覧会特設ショップの役割を果たし閉店

「開店の瞬間に多くの方がアクセスしてください、想定以上のお買い上げをいただきました」と驚きを隠せない開さん。商品が購入者の手元に届き始めるとSNSではオンラインショップに関

する投稿が増えてきました。「商品が届いて嬉しいと写真付きでシェアしてくださる方が多く、自身の思いを共有してくださったことに励まされました。普段なら購入後に会話する機会はありませんが、SNSを通じてお礼の言葉を送るなどリアル店舗ではできない新たなつながりが生まれました」と懸念も払拭されていました。SNSでの反応に一役買ったのが購入商品に同封されていた“お手紙”です。

「感謝の気持ちを綴った手紙をつけました。多くの方が共感していただき、涙が出たというコメントと手紙の写真をアップしてくださった方も。そのSNSを見て泣けてきたのは僕の方でした。リアル店舗が閉店している閉ざされた状態の中、リアルタイムでSNSに励まされ、通販という形だったけれども本当にやってよかったと思いました」。オンラインショップは、巡回先の山口県立美術館での閉幕後の6月12日~30日に再び開店。閉店最後の瞬間まで多くのお客様でにぎわい、新たな形での展覧会特設ショップの役割を終えました。

When Hiraki tweeted "The Hammershoi Exhibition has closed but we should find a way to make merchandising available especially as it was the most popular shop in the company's 15-year history." it received an overwhelming reaction from 8 times the number of followers. Normally, exhibition shops are open only for a limited time in the museum where the show is held. However, under the unprecedented situation, lenders, museums and organisers happily granted permission to sell merchandising online. Grateful for their understanding, preparations were carried out all in-house but remotely, struggling from the lack of experience in e-commerce and a limited budget. There was also concern that an online shop wouldn't be able to convey East's philosophy for the shop to be a place where the emotional experience of the exhibition continues. In order to overcome this, East included a letter with the delivery expressing appreciation for supporting the arts and the shop. Once the shop opened, it was received far better than expected, and customers started uploading images of their purchases on SNS expressing their joy upon receiving them. "...SNS enabled us to communicate with customers after they leave the shop, something that doesn't normally happen, and to thank them individually for making a purchase." This endeavour resulted in bringing the shop and the customers together in a way that has never been done before.



人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

# Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、アート・コミュニケーション事業の柱の一つである「とびらプロジェクト」に関連して、2020年2月11日(火・祝)に行われた「とびらプロジェクトフォーラム」※1の様子をご報告します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we report on the "Tobira Project Forum" held on February 11 (Tue-holiday) 2020. The "Tobira Project Forum" is a discussion platform of the "Tobira Project," a pillar of the Museum's Art Communication Program.

プロジェクトの価値を振り返り、  
これからを考える。



## 「とびらプロジェクトフォーラム」

Reviewing the project's value and thinking forward.  
"Tobira Project Forum"

とびらプロジェクトでは、アート・コミュニケーター「とびら」募集にあわせ、理念や活動を紹介し、その価値を振り返る「とびらプロジェクトフォーラム」を行っています。2019年度は「美術館とSDGs(持続可能な開発目標)」をテーマに活動を振り返りました。

The "Tobira Project Forum" announces the next term of "Tobira" art communicator recruiting. It additionally explains the project's concept and activities, and reviews its achievements. The forum this time reviewed its activities under the theme, "The Art Museum and SDGs (Sustainable Development Goals)."

### とびらプロジェクトとは？

What is the Tobira Project?

とびらプロジェクトとは美術館を拠点にアートを紹介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。2012年度より当館と東京藝術大学が連携し始動。現在142名の一般公募された3年任期のアート・コミュニケーター「とびら」と対話を重ね活動中。

The Tobira Project is a social design project of the Tokyo Metropolitan Art Museum aimed at fostering community through art. The Tobira Project began in 2012 as a cooperative endeavor of the Museum and Tokyo University of the Arts. Currently, 142 three-year-term Tobira art communicators, recruited from the general public, are engaged in activities.

## 2030年の未来へ美術館とSDGs～ アート・コミュニケーターがひろく 持続可能な社会に向けて

The Art Museum and SDGs  
Art communicator activities for a sustainable society

このフォーラムでは前号で報告したICOM京都大会※2での議論も背景に、とびらプロジェクトの活動をSDGsの理念と照らし、アート・コミュニケーターの働きを振り返りました。

冒頭、東京藝術大学美術学部特任助手の大谷郁がプロジェクト概要を紹介。アートを介して多様性を肯定し対話のあるコミュニティを育むという理念や、作品を介し時代や場所を越えて文化と接続し社会とつながるという美術館体験の本質、そうした作品との出会いに伴走するアート・コミュニケーターの役割を伝えました。

続くトークセッションでは、当館学芸員の稲庭彩和子が「美術館とSDGs」について発表。美術館が物中心の場から物と人とのコミュニケーションが生まれる人々のつながりの場へと歴史的に変化していることを踏まえ、ICOMでの議論も引用しながら美術館とSDGsが重ねて議論されている世界の現状が報告されました。その上で、SDGsの中で一番重要なのは、「人々の関わり」、「パートナーシップ」の作り方の変革であり、特に地縁・血縁等の旧来的なコミュニティが衰退し社会的孤立が大きな問題となっている日本では、美術館を拠点とするアートを介した新しい



パネルディスカッションでは和やかに議論が交わされた Exchanging views during a congenial panel discussion

つながりに可能性がある」と述べました。その後、3人のアート・コミュニケーターが登場し、任期満了後に起業した地域の学びの場づくりや、高齢者施設での造形ワークショップ等の活動を紹介。本プロジェクトでの出会いによる人生観の変化や、平等な関係の心地よさ、さまざまな場面で感じられる「誰一人取り残さない」という考え方や、「関わり方」の感想も実感を持って語られました。

最後のパネルディスカッションでは、他者との関わりと美術の関係や、社会における対話の重要性などが語られる一方、美術館活動をSDGsで語ることへの疑問も提示されるなど、活発な意見交換がなされ、フォーラムは終了しました。

フォーラム後、281名の応募者の中から54名が新規とびらとしてプロジェクトに加わりました。今後の活動にも関心をお寄せいただけたら幸いです。(東京都美術館 学芸員 熊谷香寿美)

This forum, held in the wake of the September ICOM Kyoto 2019, examined Tobira Project activities in light of SDGs and reviewed efforts being made by art communicators. OTANI Iku (Project Research Associate, Tokyo University of the Arts) began by explaining the role of art communicators in people's encounters with art. Museum curator INANAWA Sawako then discussed "the Art Museum and SDGs." After giving an update on the state of the argument, globally, concerning art museums and SDGs, Inaniwa explained that art activities based in local art museums have a real potential to generate new connectivity among people in Japan, where social isolation is increasing due to the loss of traditional communities and regional and family ties. Thereafter, three art communicators, fresh from three-year terms, discussed approaches to "getting involved" and how the project had changed their views of life, and a lively exchange ensued in the final panel discussion. After the Forum, 54 of 281 applicants joined the project as new Tobiras. (KUMAGAI Kazumi, Assistant Curator)



同日開催された第2部にも多くの来場者が参加した  
Many visitors also attended part two of the Forum, held the same day

※1/ここでは第1部の様子を紹介する。第1部登壇者：日比野克彦(東京藝術大学美術学部長、岐阜県美術館館長、とびらプロジェクト代表教員)、西村佳哲(リビングワールド代表、とびらプロジェクト・アドバイザー)、森司(アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長、とびらプロジェクト・アドバイザー)、三ツ木紀英(NPO法人芸術資源開発機構代表理事)、稲庭彩和子(東京都美術館アート・コミュニケーション係長、とびらプロジェクト・マネージャ)、伊藤達矢(東京藝術大学美術学部特任准教授、とびらプロジェクト・マネージャ)、大谷郁(東京藝術大学美術学部特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、アート・コミュニケーター(上神田健太、平野文千、木村仁美) / 記録動画 <https://tobira-project.info/movie1> ※2/第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019、2019年9月1日～7日に京都で開催された

## 公募団体・学校教育展

東京都美術館は、年間約250団体の展覧会が開催される「公募展のふるさと」です。美術団体や学校教育機関などが作る新しい作品との出会いの場をさまざまなトピックでご紹介します。

The Tokyo Metropolitan Art Museum is "the home of the public entry exhibition." Each year, some 250 groups hold exhibitions here. Visitors can enjoy encounters with new works by art groups and school education institutions, presented under a wide range of topics.

## 来て、見て、やってみて、新たに知る日本の文化！ —文化芸術体験プログラム—

Come explore, discover and experience Japanese culture through art! — Art and Culture Experience Program



英語逐次通訳付きギャラリートーク【「再興第104回 院展」公益財団法人日本美術院(2019年9月12日開催)】

Gallery talk with consecutive interpretation (Inten by Nihonbijutsuin)

東京都美術館は1926年の開館以来、年間を通してさまざまな公募団体による展覧会を開催しています。2018年度からスタートした「文化芸術体験プログラム」は、近年増加している海外からの来館者をはじめ、全ての方を対象に、当館と公募団体が協力して、日本画、書等の日本の文化芸術に触れる機会をつくり、理解を深めていた

だくものです。

外国人来館者を対象としたプログラムでは、謙慎書道会展が行う書道制作ワークショップ「文字の動物園」での制作指導において、また、産経国際書展の席上揮毫（観客の前で書の作品を書いて見せること）の解説において、それぞれ当館が英語逐次通訳を付け、外国の方が気軽に書を



英語通訳付き書道制作ワークショップ【「第81回 謙慎書道会展」謙慎書道会(2019年3月19日開催)】

Calligraphy workshop with consecutive interpretation (The Kensinn Shodokai Exhibition by The Kensinn Shodokai)

体験したり、書について理解を深める機会を提供しました。

さらに、院展において、英語逐次通訳付きのギャラリートークを行った際は、日本画特有の画材の原料となる鉱石や技法について紹介したほか、日本画の見方や作品の見どころも説明しました。外国人・日本人を問わず、参加者に分かりやすく楽しんでいただく機会となりました。

一般来館者を対象にしたプログラムでは、朝間書展において、書作品の公開制作を行い、現代の書に特有の淡墨（薄い色の墨のこと）による作品づくりの実演と解説を行うなど、どなたにも日本の伝統美に

親しんでもらえるよう努めました。

プログラムに参加した外国人来館者からは、「今まで書はカッコイイものと思わなかったが、書家が作品をつくりながら何を考えているかを知ることができた」という声がありました。また、日本人の来館者からも、「初めて日本画の顔料や画材をじかに見て、作品が生まれる過程に感動した」等のご意見をいただきました。今後も日本の文化や芸術について、多くの方々に分かりやすくご紹介していき、より身近に感じていただけるよう取り組んでいきたいと思います。

(東京都美術館 学芸員 柴田友里子)

Throughout each year since its 1926 opening, the Tokyo Metropolitan Art Museum has hosted exhibitions by wide-ranging art groups. In the "Art and Culture Experience Program" launched this year, the Museum and public organizations are collaborating to give overseas visitors opportunities to experience Japanese painting, calligraphy, and other Japanese arts.

This past year, overseas visitors could deepen their grasp of Japanese culture in easy-to-understand calligraphy workshops, live calligraphy performances, and gallery

talks explaining the materials, techniques, and distinctive features of Japanese painting—all with consecutive English interpretation.

Overseas visitors participating in the program offered such comments as "Before, I simply thought calligraphy looked cool, but now I know what calligraphers are thinking when they brush their works." We would like to continue to introduce many people to Japan's arts and culture in an easy-to-understand way.

(SHIBATA Yuriko, Assistant Curator)



美術情報室は、図書・図録・雑誌などを閲覧できるライブラリー。  
アーカイブズでは、館の歩みに関する資料を収集・整理・保存・公開しています。

A library open for perusal of reference books, catalogues, and magazines.  
The Archives collect, preserve, and display materials documenting the museum's progress.

## 美術情報室のレファレンス事例紹介

The Library and Archives: Reference Example

美術情報室では調べものや資料探しのお手伝いをする「レファレンスサービス」に力を入れています。その事例をご紹介します。

The Library and Archives offers a "reference service" to help visitors conduct research and find reference materials. Below is an example of research on a topic.



質問：正門の「東京都美術館」の「京」の字が「京」になっているのは何故ですか。

回答：正門入口左側の煉瓦色のタイルの塀にある「東京都美術館」の文字レリーフは、現在は取り壊された旧館の正面階段にあった6本の円柱の上に設置されていたもので、昭和50（1975）年に新館（前川國男設計）が開館した際、今の位置に移設されました（資料1）。「東京」と「東京」は、昭和初年頃まで混用されていた可能性があり（資料2）、大正15年に開館した旧館のレリーフでも「京」の字が使われ、それが今に残されているのです。

（参考資料）

資料1：齊藤泰嘉「東京府美術館の時代」（『東京府美術館の時代 1926-1970』、東京都現代美術館刊、2005年発行、pp. 14-15）

資料2：朝日見「東京都美術館」（『美術館ニュース No. 354』、東京都美術館刊 1980年発行 pp. 5-6）

Question:

Why is the kanji character "京" used in the museum name at the main gate instead of the usual "京"?

Answer:

The museum name "東京都美術館" ("Tokyo Metropolitan Art Museum") displayed in relief on the brick-colored tile wall, left of the main gate, was originally displayed above the six columns fronting the entrance of the original museum building (now demolished). With the new museum building's opening in 1975 (design: MAYEKAWA Kunio), the relief was re-established in its present location (Ref. 1).

Until 1926, the name "Tokyo" was apparently written using two sets of characters interchangeably: "東京" and "東京" (Ref. 2). The unusual character "京" remains today, having appeared in the relief on the original building when it opened in 1926.

(Reference materials)

Ref. 1: SAITO Yasuyoshi, "Age of Tokyo Metropolitan Art Gallery" (*Age of Tokyo Metropolitan Art Gallery 1926-1970*, Museum of Contemporary Art Tokyo, 2005, pp. 14-15)

Ref. 2: ASAHII Akira, "Tokyo Metropolitan Art Museum" (*Art Museum News No. 354*, Tokyo Metropolitan Art Museum, 1980, pp. 5-6)

## TOPICS

新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、東京都美術館は展覧会の中止や延期、臨時休館などさまざまな影響を受けましたが、この機会に新しい活動も行いました。

In response to the global spread of the novel coronavirus, the Tokyo Metropolitan Art Museum has been forced to temporarily close as well as cancel or postpone exhibitions. Meanwhile, new activities have also gotten underway at the museum on this occasion.



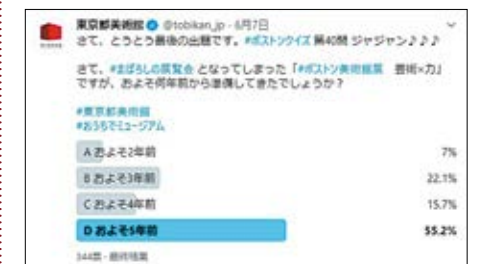
## 臨時休館中も「つながる」活動を

Activities promoting "connection" even during the museum's closure

この春、お花見の自粛により「さくら通り」が封鎖された上野公園は人影少なく、噴水広場はとても広く感じられました。当館では「ハマスホイとデンマーク絵画」は会期中で閉幕となり、公募展示室等も利用自粛をお願いしました。「ポストン美術館展 芸術×力」は作品輸送の目途が立たず開催中止になりましたが、美術館公式ツイッターで作品解説や展示模型、展覧会にちなんだクイズを連日配信したところ延べ13,426人もの方にご参加いただきました。開催を心待ちにされていた皆さまとのつながりを改めて感じ、時間をかけて準備してきた展覧会をいつかお届けできればと思っています。

「都美セレクション グループ展 2020」は6月から9月に会期を変更し、企画展「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」は欧

州からの作品借用が困難なことから今夏の開催は断念しましたが、開催可能な時期を検討しています。アート・コミュニケーション事業では4月よりオンライン・プログラムを立ち上げ、小学生から高校生の「ミュージアム・チューバー」が共同制作した動画を多くの視聴者に披露するなど、活発な活動を続けています。「新しい生活様式」の中でも皆さまと「つながる」新たなチャレンジを大切にまいります。



Ueno no U

うえのの

う

ときどき谷根干

ギャラリー大久保/  
茶室 瑜伽庵 店主

## 大久保 満さん

Owner, Gallery Okubo /  
Tearoom YUKA-AN  
OKUBO Mitsuru下町の風情を残しつつ、最先端の店も軒を連ねる上野界隈。  
今回は、谷中で大正時代から続く骨董店を営む  
茶室の店主が、町の魅力を紹介します。The Ueno area features many trendy shops while retaining the  
mood of Tokyo's old downtown quarter.  
This time, the owner of a Yanaka antique shop founded in the  
early 1900s who now operates "Gallery Okubo" and tearoom  
"YUKA-AN" introduces us to the district's charms.風景は変わりつつあるけれど  
谷中はまだまだ人情の町

The townscapes have changed, but Yanaka is still a warm community.

茶道具を専門に扱う「大久保美術」は、大正2(1913)年に創業しました。私で4代目です。創業100年を機に改築、2階を「ギャラリー大久保」として茶室「瑜伽庵」を設けました。骨董の器でお茶を楽しめる茶室があれば、お客様に喜んでいただけるのではないかと考えたのです。茶室の形式は、高齢のお客様のことを考慮し、正座ではなく椅子でお点前をいただく立礼式にしたのですが、ちょうどそのころから谷中に増えて

きた外国人観光客にそのしつらえがマッチしたようで、今はほとんどが海外からのお客様です。

谷中を訪れる方の多くは、まだ残る古い町並みを楽しんだり、谷中墓地を散策したりされるとありますが、私が好きなのは、谷中墓地の脇の芋坂を下ったところの陸橋。JR東日本の在来線や京成線の線路をまたいでいて、各種電車が行き交う様子を楽しめる場所です。小学生のころには蒸気機関車も走っていました。下を通

る蒸気機関車の煙に包まれるのが面白くて、わざわざそのタイミングを狙って行ったりしました。大人になってからは、気分転換をしに行ったり、娘が小さいときにはあやすために連れて行ったり……ずっと親しんできた風景です。今は、JR日暮里駅の北側にかかる下御隠殿橋に「トレインミュージアム」というバルコニーが設置され、電車好きの人たちに人気のスポットになっています。

今は谷中というと、東は日暮里、西は根津まで広い範囲を指しますが、江戸時代の地図を見ると、谷中とは上野公園の北側にあたる高台の地域だけを指していたようです。この辺りは江戸時代から上野寛永寺のお膝元として栄えてきたエリアなんです。うちの店が2代目以降ずっとこの地で商売を続けてこられたのは、そういった門前町としての土地柄と茶道具専門の古物商という商売の相性が良かったからだと思えますね。

今も寺はたくさんありますが、私が子どもの頃はもっと門前町の色が濃くて、たとえば近所の肉屋は玉子屋という看板を掲げていました。寺の門前で、殺生にまつわる商売ははばかれるので、玉子屋と名乗っていたわけです。もちろん売っているのは肉でした。また、お寺ではしばし

ば法事がありますから、酒屋や仕出しをする魚屋もこの界限には多かったですね。今はそういった商店はすっかりなくなってしまいました。それでもこの町には、長い年月をかけて営まれてきた「暮らし」がまだ息づいていて、変わらず「人情」にもあふれています。それが谷中の魅力だと思います。

"Art Okubo," a shop selling tea ceremony utensils, was founded in 1913. On the shop's centennial, I added "Gallery Okubo" and tearoom "Yuka-an" for enjoying tea using antique wares. Tearoom guests do not sit on their knees but rather on chairs in the ryurei-shiki (chair-style tea ceremony) style. This style is apparently good for overseas tourists, for currently almost all our guests are from overseas.

People who visit Yanaka mainly stroll the still-remaining old town streets, but my own liking is the pedestrian bridge over the train lines, at the bottom of Imozaka slope along Yanaka Cemetery. It's a good place to watch the different kinds of trains come and go, and it is a landscape familiar to me since my childhood. When we say Yanaka, now, it means a broad area from Nippori in the east to Nezu in the west. An Edo-period map, however, will show it to mean the north side of Ueno Park hill. This area flourished in Edo days as the backyard of Ueno's Kanei-ji Temple. There are still many temples, but Yanaka had a clearer character as a temple town when I was a child. In those days, for example, the neighborhood meat shop had the signboard of an egg shop. Operating a business related to the taking of life near a temple was frowned on, in other words, so they assumed the name of an egg shop.

Because of the memorial services at the temples, there were also many sake shops and fish shops in this vicinity. Now, they have all disappeared, but even then, the "way of life" fostered in this district still lives. A district overflowing with "human warmth" — this is the charm of Yanaka.



茶碗は、月替わりのリストから好みを選ぶ。江戸期の骨董から昭和の作家ものまでいろいろ。選んだ器で、茶道の先生がお茶を点ててくれる

Guests choose a tea bowl from a daily list. They range from Edo-period antiques to works by modern ceramic artists. The master of the ceremony personally makes tea in your chosen bowl.



お点前を味わう間に、大久保さんがさらさらっと描いてくれたのは、選んだ茶碗の絵と簡単な説明。うれしいおみやげに

As we tasted the tea and confection, Mr. Okubo sketched our chosen bowl with a brief explanation. It made a nice souvenir.



小松宮<sup>あきひと</sup>彰仁親王(弘化3(1846)年～明治36(1903)年)は、伏見宮<sup>くにいえ</sup>邦家親王の第8王子として生まれ、戊辰戦争、西南戦争に従軍した後、日本赤十字社の総裁となり、社会奉仕活動の発展に貢献しました。銅像は靖国神社の大村益次郎像と同じ大熊<sup>うじひろ</sup>氏廣の作、台座は岡田信一郎の設計により、明治45(1912)年に建立されました。岡田は上野公園では東京府美術館(1926年)、黒田記念館(1928年)、東京藝術大学陳列館(1929年)の設計者でもあり、様式建築の名手として知られています。(東京都美術館 広報担当係長 山崎真理子)



小松宮彰仁親王銅像

BRONZE STATUE OF THE PRINCE KOMATSU NO MIYA AKIHITO

Prince Komatsu no miya Akihito (1846-1903) was the eighth son of Prince Fushimi no miya Kuniie. After serving in the Boshin War and Satsuma Rebellion, he became president of The Japanese Red Cross Society and contributed to the development of social service activities. The bronze statue is by sculptor OKUMA Ujihiro, who also created the Statue of Omura Masujiro at Yasukuni Shrine. This Prince Akihito statue was raised in 1912 on a pedestal designed by OKADA Shinichiro. Okada—who also designed the Tokyo Prefectural Art Museum in Ueno Park (1926), Kuroda Memorial Hall (1928), and Chinretsukan Gallery, The University Art Museum, Tokyo University of the Arts (1926)—is renowned as a master designer in the Western style.

(YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)

## 東京都美術館 ニュース No.464

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

**発行日** 2020年9月30日  
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、  
2020年6月30日発行を延期

**発行** 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

**企画・編集** 東京都美術館 広報担当

**デザイン** 株式会社ファントムグラフィックス

**翻訳** アムスタッツ コミュニケーションズ

**印刷・製本** 株式会社ルナテック

©Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館  
〒110-0007  
東京都台東区上野公園8-36  
Tel 03-3823-6921  
Fax 03-3823-6920

**公式サイト**  
<https://www.tobikan.jp>

**Twitter**  
tobikan\_jp  
tobikan\_en

**Facebook**  
TokyoMetropolitanArtMuseum

表紙の  
写真

井上武吉《my sky hole 85-2 光と影》1985年  
INOUE Bukichi, *my sky hole 85-2: light and shadow*, 1985